

M-3-4-6

資料名 大陸通報 第 11 號

出所 滿鐵小樽鮮滿支案内所

作成年 19420601

寄贈者

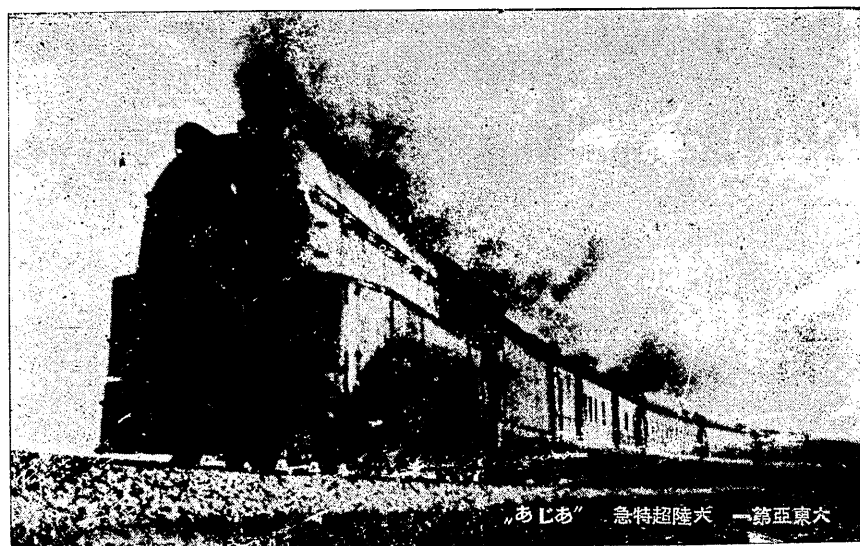
受入

注記 38P 26×19cm

# 大陸通報

第 11 號

6 月 1 日



あじあ 急特超陸大 一第亞東大

鐵道、自動車、水運の諸事業は政府が滿鐵（資本金十四億圓）に委託經營せしめて居り、航空事業は特殊會社たる滿洲航空會社が經營し、大日本航空會社と中華航空會社とが新京、大連でそれぞれ連絡してゐる。

鐵道運輸で着目されるのは、嘗て貨主客從の觀があつたのが、建國後は客貨比率も均等に迫り旅客輸送の目まぐるしい發達はあきれるばかりである。

矢つぎ早やの新線建設に全滿鐵道延長はぐんぐん飛躍し、國有鐵道と滿鐵社線を合すれば營業里程一萬一千軒を超え、ほかに私設鐵道、森林鐵道が若干ある。

## 滿鐵小樽鮮滿支案內所

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28

・物見洲満のンサウト・



ハルピンの馬車

ハルピンで馬車をひろつて乗ったのさ。馬が突いて  
 満人の馭者が居て後に乗れると云ふだけ。幸で、  
 箱に車をつけた小さな馬が斜つかいにはろろく  
 駆け引きたぬ事おびたしい。ヒン弱とはこれか  
 ら出た言葉と思つたよ。  
 處がじゃ、後から肩々と石畳を踏つて一台の  
 馬車が近づいた。  
 仲間が来たと思つて振り返ると、どうじや、  
 こちらの二倍もある様なロシヤ馬がアーチを  
 立て、サソウと横に並んでる。  
 その又馭者が見事なロシヤ人で、金ピカを  
 着せたら陸軍大將さんじや、白い八字髭を  
 ピンと張つて、忽ちうちにはわし等の馬車の先  
 に立つた。

『前には走つてゐるの、ありや何だい』  
 『それなら何んて情ない奴だろ』

『あれですか、馬車かせう』  
 『と吐かし居つた、で云つてやつたぬ。』

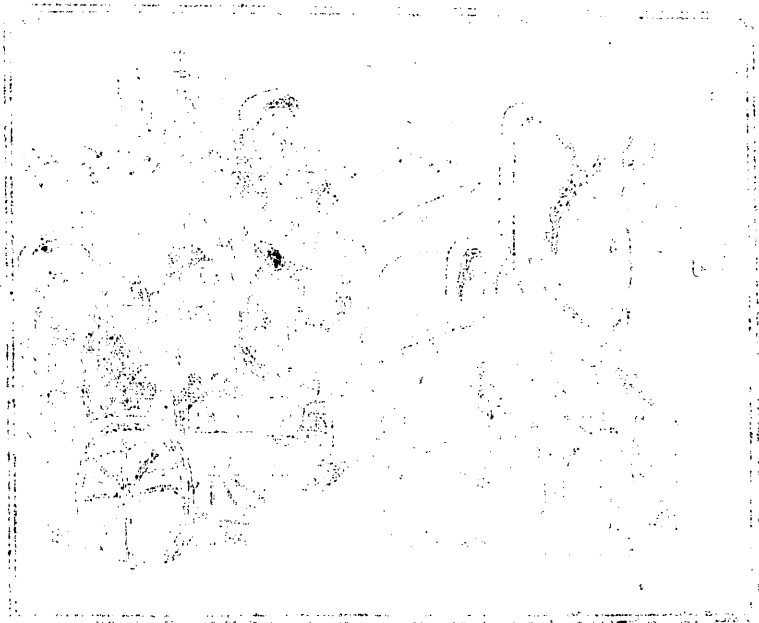
『トインあれが馬車かい、それですと俺  
 たちの乗つてゐるの何んて云ふんだらうナ』

業務案内

一、鮮満支案内所は南滿洲鐵道株式會社及華北交通株式會社が「日本朝野の大陸への認識を求め之が旅客又は貨物の輸送の便宜を計るため」に設けてゐる國策的奉仕機關であります。  
 一、鮮満支地方の産業經濟、交通其他事情紹介、旅行の斡旋、旅行案内記贈呈、鮮満支荷物運送及通關に關する説明を無手数料で致します。  
 一、鮮満支事情の出張講演、映畫展覽會資料及映畫の貸出、刊行物に依る紹介宣傳を無手数料で致します。  
 一、鮮満支案内所は小樽、東京、大阪、名古屋、新潟、敦賀、門司、下ノ關、長崎の九都市に在り小樽は北海道、樺太を支持區域として前掲の業務を取扱ひ致します。

滿鐵鮮満支案内所

小樽	稻穂町東六丁目	電	四七五
東京	京橋區銀座二ノ一	電	二八八
大阪	東區堺筋安土町	電	七七八
名古屋	中區榮町一ノ一〇	電	七七七
新潟	古町通六	電	二九七
敦賀	驛前大通	電	四一八
門司	門司稅關前	電	三二二
下ノ關	下ノ關驛前	電	一四一
長崎	萬屋町七九	電	一九六
			四七八



八六五ノ四四

卷 頭 言

滿鐵弘報隊來る。

滿洲建國十周年の慶は親邦日本の大東亞戰大戦果と共に日滿支亞細亞大陸に漲つて居る。

此の建國十周年を記念し併て長期決戦下の北方の重要性と之が樞軸たる滿洲躍進の實情を内地の人々に深き認識を與へる爲滿鐵に於ては滿鐵弘報隊を組織之を五班に分ち一班七名の人員を以て五月十五日より一ヶ月間内地八十ヶ所を巡回座談、講演、映畫に依り特別階級に之を訴へることゝなつた。

其の説く所滿洲は大東亞建設の基礎を作り共榮圈の樞軸たる事は申す迄もないが其の使命の第一に大和民族培養基地としての滿洲である十億のアジア民族を率ゐて起つ日本として内地人口七千萬は過少にして北方アラブ民族の驚くべき膨脹を考へても大和民族の人口増殖基地を何處かに求むる必要がある。

併し其の人口培養基地は徒らに民族を殖やすと云ふのではなく大和民族の優秀性を鍛鍊し皇道精神を永遠に生かし伸長せしむる所ではなくてはならぬ之が意味から滿洲の地勢的位置或は氣候風土は大和民族の人口基地

として又精神道場として理想地である。南に物を確保し北に質實剛健な木  
和民族を發展させることに依つて始めて大東亞共榮圏は永遠に不壊な基  
礎を確立するものと思ふ。  
其他産業關係に於ても然り。北方圏たるの北海道の地位又同様と云ふ。  
北海道人士よ滿鐵弘報隊の眞意を諒解滿洲國と同様北方圏の重責を知れ  
此の重責を克く知ると共に同じ重責を持つ滿洲國とより克く相提携大東  
亞共榮圏の確立に邁進したい。

昭和十七年五月十二日

小樽銚滿支案内所長  
白川 義隆

本報が本年四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車  
 一、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車  
 二、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車  
 三、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車  
 四、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車  
 五、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車

目次

◎ 滿支ノ年中行事（續ク）

一、六月（舊曆）滿支ノ行事 ..... 一  
 1、天 胎 節 ..... 一  
 2、小 神 誕 生 日 ..... 一  
 3、菩 薩 過 海 日 ..... 二  
 4、三 紅 ..... 二

◎ 旅客關係

一、阪連線船客携帶寫眞機取締ニ就テ ..... 三  
 二、主 要 都 市 乘 物 ..... 四  
 三、廟 祭 一 覽 ..... 八  
 四、奉天驛ニ兌換所 山海關驛ノ混雜緩和策 ..... 一  
 五、四月二十九日カラオ目見得ノ市内長沼公園ニ子供列車 ..... 二

◎ 弘報關係

◎ 滿洲國

- 一 滿洲國二十五年紀念式典
- 二 滿洲國二十五年紀念式典
- 三 滿洲國二十五年紀念式典
- 四 滿洲國二十五年紀念式典
- 五 滿洲國二十五年紀念式典
- 六 滿洲國二十五年紀念式典
- 七 滿洲國二十五年紀念式典
- 八 滿洲國二十五年紀念式典
- 九 滿洲國二十五年紀念式典
- 十 滿洲國二十五年紀念式典

◎ 滿洲國二十五年紀念式典

- 一 滿洲國二十五年紀念式典
- 二 滿洲國二十五年紀念式典
- 三 滿洲國二十五年紀念式典
- 四 滿洲國二十五年紀念式典
- 五 滿洲國二十五年紀念式典
- 六 滿洲國二十五年紀念式典
- 七 滿洲國二十五年紀念式典
- 八 滿洲國二十五年紀念式典
- 九 滿洲國二十五年紀念式典
- 十 滿洲國二十五年紀念式典

一 滿洲國十周年記念

- 一 「滿鐵弘報隊演映會座談會」開催
- 二 傍系會社モ含メテ滿鐵業務調整斷行
- 三 南北物資輸送路滿鐵ヲ具體案練ル
- 四 滿鐵刀ノ光榮 汪主席ノ贈呈品ニ選ハレル
- 五 六大都市及北海道其ノ他特設館 大東亞建設博ニ設置
- 六 大清河ニ水閘成リ 大船團保定ヲ初船出

◎ 貨物關係

- 一 滿洲支向貨物ニ對スル荷造規格ノ試行
- 二 滿洲包裝協會近ク設置 輸送事故ヲ防止
- 三 連絡荷物ニ就テ一般ヘノ要望
- 四 天津碼頭ノ船車連絡愈々實現

◎ 連續讀物欄

- 一 滿洲地名考

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

北方の雲

高木恭造氏作

北の空にぼつかりと浮んだ

一つの雲

動くのでもなく擴がるのでもなく

そいつをじいと瞞める

瞬きもなくするどい防人の眼

かりがねは北に向ふ

「南方ヨリ捷報アリ」

風冷く草いまだ萌えざるも

北邊にもすでに春の至れるにや

空にぼつかりと浮んだ

一つの雲



◎ 滿支ノ年中行事（續ク）

六月（舊曆）滿支ノ行事

一、天貽節

舊曆六月六日テ土用ノ虫干シ日ニ當ル農家テハ、馬、

豚、羊等ノ家畜ヲ洗ツテヤリ、質屋テハ質クサノ手入レニ目カマ

ハル程忙シク御寺テハ經本ヲ曝シ佛像ヲ清メル尙コノ日ニ髪ヲ洗

フト何時マテモ汚レナイト言ツテ女ハアラソツテ髪ヲ洗フ

二、小神誕生日

舊曆六月八日小神トイフノハ王八（龜）ノ精テコノ

日ニ雨カ降ルト水ニ縁カアル王八ノ生日タカラ嘗然タナトト言フ

龜ハ昔カラ長生キヲスル動物タト信シラレテキテ或ル意味テハ精

力ノ大衆的象徴トモ見ラレ墓陵ノ碑石ノ臺石ニマテ其ノ姿ヲ刻マ

レテ來タ程テアルケレトモ今日テハ滿洲テモ支那テモコレヲ甚ダ

シク忌ミ嫌フ

「王八」トイフノハ他人ヲノシル場合ノ言葉トサレテキルナセ

龜カソシクニ疎ンセラレテキルカトイフコトハ研究シタラ非常ニ

面白イト思フ一説ニ王八ハ忘八ニ通シ「孝悌忠信禮義廉恥」ノ八

ツノ道ヲ忘レルトイフ意味カラ龜ヲ忌ムヤウニナツタト言フカム

ロンコレハ牽強附會テアラウ

三 菩薩過海日 舊曆六月十九日テ信心深イモノハ一日ナマクサヲ食  
ヘナイトイフコノ日雨カ降ルト菩薩カ雨ヲ帶ヒテ來タトイフ言ヒ  
現ハシ方カアルソウテ如何ニモ詩ヲ感シサセル言ヒマハシテアル  
コノ日觀音堂テハ芝居ナトカアリ參詣者ヲ欣ハセテキル  
四三 紅 舊曆六月二十三日ハ馬王ノ誕生日テアル二十四日カ關帝  
二十五日カ火神ト三ツノ神様ノ誕生日カ續クカ馬王モ關帝モ火神  
モ皆顔カ赤イトコロカラコノ三日ヲ引ツクルメテ「三紅」トイフ  
ノテアル  
馬王ハ馬ヲ司ルカラ馬ヲ飼ツテキル農家ナトハ忘レスコノ日ハ馬  
王ヲ祀ル關帝ノ誕生日ニハトコノ關帝廟モ人出カ多ク各家庭テモ  
オ祀リヲスル火神ノ祭日ニハヨク雨カ降ルカコレハ火神カ降雨ノ  
法ヲ知ツテキルカラトモイヒ又火神カ雨ヲ降ラスノテハナクテ龍  
王カ火神ノトコロヘオ祝ヒニユクノテ雨カ降ルノタナトトモイフ

三 菩薩過海日 舊曆六月十九日テ信心深イモノハ一日ナマクサヲ食  
ヘナイトイフコノ日雨カ降ルト菩薩カ雨ヲ帶ヒテ來タトイフ言ヒ  
現ハシ方カアルソウテ如何ニモ詩ヲ感シサセル言ヒマハシテアル  
コノ日觀音堂テハ芝居ナトカアリ參詣者ヲ欣ハセテキル  
四三 紅 舊曆六月二十三日ハ馬王ノ誕生日テアル二十四日カ關帝  
二十五日カ火神ト三ツノ神様ノ誕生日カ續クカ馬王モ關帝モ火神  
モ皆顔カ赤イトコロカラコノ三日ヲ引ツクルメテ「三紅」トイフ  
ノテアル  
馬王ハ馬ヲ司ルカラ馬ヲ飼ツテキル農家ナトハ忘レスコノ日ハ馬  
王ヲ祀ル關帝ノ誕生日ニハトコノ關帝廟モ人出カ多ク各家庭テモ  
オ祀リヲスル火神ノ祭日ニハヨク雨カ降ルカコレハ火神カ降雨ノ  
法ヲ知ツテキルカラトモイヒ又火神カ雨ヲ降ラスノテハナクテ龍  
王カ火神ノトコロヘオ祝ヒニユクノテ雨カ降ルノタナトトモイフ



旅順戰蹟巡拜バス（大連都市交通會社）  
 現在一日二回左ニヨリ運行中、四月ヨリ一日三回運行、豫定

(二) 主要都市乗物

○ 旅順戰蹟巡拜バス（大連都市交通會社）

現在一日二回左ニヨリ運行中、四月ヨリ一日三回運行、豫定

大連發	旅順着	戰蹟へ出發	戰蹟ヨリ歸着	旅順發	大連着
前八〇三	前九四五	前一〇〇〇	後三三〇	後三三〇	前四三〇
前九三〇	前一〇四五	前一、〇〇〇	後四三〇	後四三〇	後五三〇

△發著 大連―常盤橋バス待合所前

旅順―乃木町バス待合所前

△所要時間

白玉山―戰利品陳列館―東鷄冠北堡壘―二龍山―堡壘―水師營會見所―爾靈山（二〇三高地）―博物館

△所要時間 五時間半

△料金

大連ヨリ戰蹟一巡 五、五〇（稅共）  
 大連―旅順間片道 一、五〇（〃）  
 旅順戰蹟一巡 二、五〇

△軍關係ヲ除キ一般ニ對スル團體貸切ノ取扱セス

○奉天觀光バス(奉天交通株式會社)

五月一日ヨリ一日二回午前九時及午後二時ニ夫々二臺宛(二五人乗)運行開始

△料 一、五〇

驛―忠靈塔―國立博物館―北陵―柳條湖―北大營―城内―奉天神社―驪歸著

△所要時間 三時間

△料 金 二、〇〇(軍人、小人半額)

△貸切扱セス

○撫順見學バス(奉天交通株式會社)

四月中旬ヨリ運行ノ豫定、團體貸切モ取扱フ筈

△料 一、五〇

炭礦事務所―古城子露天堀―大山坑―撫順神社―餐ヶ丘

△所要時間 二時間半

△料 金 一、五〇(軍人、小人半額)

(團體貸切ハビユ―回―案内所ニ御相談下サイ)

△所要時間 三時間  
 △料 金 三、〇〇  
 △團體貸切ハ二〇名以内ノ小團體ニ限り混乗扱トシ、一重貸切取扱  
 ハス  
 ○吉林觀光バス（吉林自動車運輸會社）  
 本年度ヨリ長短二種トシテ制ヲトルモ當分ノ間長種トシテノミトシ一  
 日一同午後零時十五分ニ一臺（定員大型三〇人乗、小型二五人乗）  
 運行、休祭日ハ更ニ一臺増配車ス  
 △團體ノ貸切應需  
 △種トシテ（長種トシテ）

○新東京觀光バス（新東京交通會社）  
 現在一日二回、午前十時及午後二時ニ夫々一回一臺宛（三〇人乗）  
 運行中多客ノ際ハ各一臺宛増配ス  
 △種トシテ

隣一 新東京神社一 註滿大使館一 忠靈塔一 寬城子戰蹟宮廷府一 大  
 同廣場一 南嶺戰蹟一 安民廣場一 國務院一 宮廷御造營地一 南新  
 京一 寶山百貨店

△所要時間 三時間  
 △料 金 三、〇〇  
 △團體貸切ハ二〇名以内ノ小團體ニ限り混乗扱トシ、一重貸切取扱  
 ハス  
 ○吉林觀光バス（吉林自動車運輸會社）  
 本年度ヨリ長短二種トシテ制ヲトルモ當分ノ間長種トシテノミトシ一  
 日一同午後零時十五分ニ一臺（定員大型三〇人乗、小型二五人乗）  
 運行、休祭日ハ更ニ一臺増配車ス  
 △團體ノ貸切應需  
 △種トシテ（長種トシテ）

○ 吉野園...  
 △ 所要時間 (長コトス) 約五時間  
 △ 料金 金

△ 所要時間 (長コトス) 約五時間  
 △ 料金 金

○ 承徳觀光バス (承徳自動車區)  
 乗客一〇名以上アルトキ又ハ一〇名分料金ヲ拂フトキニ限り一日  
 一回午前十時ニ一臺宛 (大型四五人乗、小型二五人乗) 運行ス貸  
 切ノ取扱ヲ爲ス  
 △ コトス

驪 吉林神社 孔子廟 松花江岸 豐滿ダム 北山 城内  
 市公署 驪

△ 所要時間 (長コトス) 約五時間  
 △ 料金 金

長コトス	下士官兵	二、五〇
長コトス	大人、學生、將校	三、八〇
短コトス	小人	二、〇〇
短コトス	大人 (軍人學生)	二、〇〇
短コトス	小人 (割引ナシ)	一、〇〇

△ 長コトス 乗客ニシテ晝食希望ノ向ニ對シテハ吉林案内所ニテ驪  
 辨手配ス

○ 承徳觀光バス (承徳自動車區)  
 乗客一〇名以上アルトキ又ハ一〇名分料金ヲ拂フトキニ限り一日  
 一回午前十時ニ一臺宛 (大型四五人乗、小型二五人乗) 運行ス貸  
 切ノ取扱ヲ爲ス  
 △ コトス

自動車停留所 忠靈塔 觀光道路 喇嘛廟 (普寧寺、普佑寺)

○ 須彌福壽廟、普陀宗乘廟、避暑山莊、自動直停留所、

△所要時間 三時間  
 △料 金 一、五〇（小人半額）  
 △貸切料金 最初ノ一時間二九、〇〇以後一時間ヲ増ス毎二四、五〇増

須彌福壽廟、普陀宗乘廟、避暑山莊、自動直停留所

△所要時間 三時間  
 △料 金 一、五〇（小人半額）  
 △貸切料金 最初ノ一時間二九、〇〇以後一時間ヲ増ス毎二四、五〇増

(三)

滿洲ニ於ケル六月以降ノ廟祭ハ左ノ通テアル

廟 祭 名	期 日	陽 曆	下 車 驛
迷嶺山娘々廟祭	五月三〇日	ヨリ 六月三日マテ	連京線大石橋
善果寺娘々祭	"	"	昌圖
阜豐山娘々廟祭	"	"	大屯
康寧寺祭	六月七日	ヨリ 六月一〇日マテ	蘆家屯
葉王廟祭	六月九日	ヨリ 六月一三日マテ	分水
"	"	"	王家







葛根廟會	七月二六日ヨリ 七月二七日マテ	白阿線葛根廟
三間房娘々廟會	六月一日	平齊線三間房
鄭家屯關帝廟會	第一回六月一日 第二回六月一〇日	鄭家屯
王府阿拉街廟會	七月二六日ヨリ 七月二七日マテ	京白線王府
海拉爾甘珠爾廟會	九月一日ヨリ 九月一七日マテ	濱洲線海拉爾

(四) 奉天驛ニ兌換所 (華北交通カ滿鐵ニ交渉) 山海關驛ノ混雜緩和策

華北交通テハ目下戰時輸送強化週間ヲ設定シ戰時下躍動スル各貨物送ノ強化ニ萬全ヲ期シツツアルカ最近鮮滿支ヲ繋ク大動脈奉山線ノ旅客激増セル上ニ山海關ニ於ケル兌換所ノ殺人的混雜ノ結果、下リ主要列直カ類繁ニ遲延シ延イテハ戰時下輸送力ノ強化ニ支障ヲ來ス慎レモアルノテ之カ解決ハ刻下ノ急務トシテ滿華鐵道當局ノ重大懸案トナリツツアル即チ特ニ乘客ノ多イ下リ興亞ニツイテミルモ山海



カ恙ナク大陸少國民ノオ相手ヲ勤メマヌヤウニト嚴肅ナ淨ノ式カ  
行ハレルカ營業時間ハ毎日始發午前十時、終發午後五時乗車料金ハ  
大人四十錢、子供二十錢テ全線ヲ二周スル

◎ 弘報關係

(一) 滿洲建國十周年記念

「滿鐵弘報隊講演映畫會座談會」開催

苦闘ノ建設成ツテ滿洲建國ノ慶ヒハ親邦日本ノ大東亞戰ノ赫々タル  
戰果ト共ニ日滿兩國内ニ漲ツテキル

コノ建國十周年ヲ記念シ併セテ躍進滿洲ノ現實姿ヲ紹介スルト共ニ  
長期決戦下ニ於ケル北方國トシテノ重要性ヲ内地ノ人々ニ深く認識  
セシムル爲滿鐵ニ於テハ日本全國主要都市テ五月中旬カラ約一ヶ月  
ノ期間テ講演映畫會及座談會ヲ開催スル全國五班ニ別レ一班十名會  
社ノ最高幹部ヲ團長トシ夫々部門ノ「記事スパート」ヲ網羅シ全員  
五十有餘名何レモ堂々タル顔振レテ一般ノ期待ニ副フモノト自負サ  
レルカ當北海道ニ於テモ左ニ依ツテ順次開催ノコトトナツタ  
一、俱知安、帶廣、釧路、野付牛、旭川、岩見澤、長萬部、函館ノ八  
箇所テ五月十六日俱知安ヲ振出シニ三十日函館迄順次開催スル

二、講師

團長 滿鐵東京支社

衛藤利夫 (一般)

總局 弘報課

井上胤信 (一般文化)

調査室

笹倉正夫 (鑛業關係)

三、映 畫  
 1、秘境熱河 2、輝ク一萬軒 3、樂土新滿洲  
 傍系會社モ含メテ滿鐵業務調整斷行  
 滿鐵ノ北漸態勢ヲ顯著ニ表現スルモノトシテ業務調整力注目ヲ浴ヒ  
 テキルカ四月二十、二十一日兩日鐵道總局ニ於テ開催ノ營業、水運  
 關係打合會議ニ於テ明示サレタ業務方針ニ於テモ業務調整ヲ中心ト  
 シテ展開サレル輸送戰時體制ノ強化カ如實ニ示サレテキル目標トス  
 ルトコロハ勿論重大時局ニ對處シテ從來隨所ニ見ラレタ障礙ヲ除去  
 シテ業務ノ電擊的處理ヲ行ハウトイフニアルカ佐藤鐵道總局長ハ打  
 合會議ノ席上本年度ノ業務方針ノ重點トシテ  
 一、業務ノ簡易化  
 二、專故絶滅

滿鐵總局 水運課	佐藤 虎雄	(水運關係)
〃 總局 附業局	岡田 勇	(開拓關係)
〃 總局 營業課	白石 廣	(交通關係)
滿洲日々新聞社	笠山 靜雄	(經濟關係)
小樽滿鐵所長	白川 義隆	(北海道ト大陸)

三、映 畫  
 1、秘境熱河 2、輝ク一萬軒 3、樂土新滿洲  
 傍系會社モ含メテ滿鐵業務調整斷行  
 滿鐵ノ北漸態勢ヲ顯著ニ表現スルモノトシテ業務調整力注目ヲ浴ヒ  
 テキルカ四月二十、二十一日兩日鐵道總局ニ於テ開催ノ營業、水運  
 關係打合會議ニ於テ明示サレタ業務方針ニ於テモ業務調整ヲ中心ト  
 シテ展開サレル輸送戰時體制ノ強化カ如實ニ示サレテキル目標トス  
 ルトコロハ勿論重大時局ニ對處シテ從來隨所ニ見ラレタ障礙ヲ除去  
 シテ業務ノ電擊的處理ヲ行ハウトイフニアルカ佐藤鐵道總局長ハ打  
 合會議ノ席上本年度ノ業務方針ノ重點トシテ  
 一、業務ノ簡易化  
 二、專故絶滅

一、客貨關係規定ノ改正カ附議サレ席上全員一致テ可決サレ近ク  
 實施サレルコトトナツタ  
 二、即チ現行ノ客貨關係規定ハ餘リニ複雑ニ過キ滿系從業員ヲ主體ト  
 スル國線テハトクニソノ運用カ困難テアリ將來モ益々滿系ヲ使用  
 スル率カ多クナル状態ニ鑑ミコノ際徹底的ナ各種規定ヲ簡易化シ  
 之カ運用ノ圓滑ヲ期スルコトトナツタワケテ簡易化ニ伴ツテ一定  
 ノ限度内ニ於ケル必要事項ハ總テ各鐵道局ニ指示又ハ手配ヲ一任  
 スル筈テアル  
 三、南北物資輸送略 滿鐵テ具體案練ル

三、企業精神ノ涵養

ノ三ツヲ掲ケコレカ實現ノ方途トシテ業務調整ノ實施ヲハシメ諸規  
 定ノ改正、從事員ノ養成並ニソノ配置ノ適正化ヲ行フ方針ヲ持ニ業  
 務調整ハ社業ノ全般ニ及ホスノミテナク滿鐵ヨシツエルシノ持ツ綜  
 合的實力ヲ十二分ニ發揮シ國策的使命ノ遂行ニ萬全ヲ期シテ前進體  
 制ヲ確立セントシ社内業務ノ簡易化ヲ軸心トシサラニ傍系會社内ノ  
 業務ヲモ調整シ滿鐵ノ業務關係本年度ノ方針トシテ示サレタ業務ノ  
 簡易化ノ第一歩トシテ四月二十日鐵道總局テ開催ノ營業、水運打合  
 會議ニ客貨關係規定ノ改正カ附議サレ席上全員一致テ可決サレ近ク  
 實施サレルコトトナツタ

三、南北物資輸送略 滿鐵テ具體案練ル

即チ現行ノ客貨關係規定ハ餘リニ複雑ニ過キ滿系從業員ヲ主體ト  
 スル國線テハトクニソノ運用カ困難テアリ將來モ益々滿系ヲ使用  
 スル率カ多クナル状態ニ鑑ミコノ際徹底的ナ各種規定ヲ簡易化シ  
 之カ運用ノ圓滑ヲ期スルコトトナツタワケテ簡易化ニ伴ツテ一定  
 ノ限度内ニ於ケル必要事項ハ總テ各鐵道局ニ指示又ハ手配ヲ一任  
 スル筈テアル



東亞大陸ノ交通幹線トシテ、上海特急カ實現サレントシテキルカ  
滿鐵テハコレト同時ニ南方ト北方共榮圖滿洲間ノ物資交流ヲ齎ス貨  
物輸送連絡ヲ開設スヘク計畫ヲ進メテキル同計畫ハ揚子江ノ航送船  
ノ運航開始ニヨリ上海ヲ起點トシテ南方ト連絡シ更ニ北上シテ滿洲  
ト結フモノテ華北交通、華中鐵道ト緊密ナ連繫ノ下ニ滿鐵鐵道總局  
カ主體トナツテ具體化ヲ急クコトトナリ近々中ニ運賃ノ調整、貨直  
繰リノ圓滑等ニツキ周到ナ計畫案ヲ作成輻輳スル海運力カバシテ  
大陸ヲ一貫スル客貨輸送カ世紀ノ爆音ヲ立テテ實現サレル日モ近ク  
大キナ期待カ懸ケラレテキル

四

滿鐵刀ノ光榮 汪主席ノ贈呈品ニ選ハレル

汪精衛氏ノ贈呈品ニ選ハレタ滿鐵刀ノ光榮、滿洲國政府テハ今回ノ  
中華民國政府主席汪精衛氏一行ノ來滿ヲ機ニ躍進滿洲國ヲ象徴スル  
數々ノ滿洲特產物ヲ一行ニ贈呈スルコトトナリソノ一品目トシテ滿  
鐵刀ヲ選定過日來滿鐵刀劍製作所ニ十六口ノ製作方ヲ依頼中テアツ  
タカ光榮ニ感激スル製作所員ノ精魂コメタ鍛鍊ニ十六口トモ此程見  
事ナ出來榮エヲ見セテ完成四日新京ニ發送サレタ汪主席ノ國都入ヲ  
待ツテ正式ニ滿洲國政府カラ汪精衛氏以下隨員ノ人達ニソレソレ贈



大清河ニ水開成リ 大船團保定ヲ初船出  
背後地ニ井陘、正豐等著名ナ炭礦ヲ有シ沿線ニハ葦、アソベヲ、穀  
類等ノ農產物多ク運炭航路トシテ又農產物搬出路トシテ北支ノ内河  
水運ニ於テ最モ重要視サレテキル大清河（保定―天津）ハ局地的ニ  
淺瀬カアルノテ輸送上百パーセントノ効果ヲ發揮出來スカネカ遺  
憾トサレテキタトコロ今般建設總署ノ手テ水支ニ於ケル最初ノ水開  
カ特ニ水位低ク難航區中ノ難航區ト稱サレテキタ東焦ト東安トニ竣  
成ヲミ二十一日同水開テ盛大ナ通開式カ催サレルト共ニ華北交通テ  
ハ同日物資ヲ滿載シタ七、八十隻ノ船團ヲ保定ヨリ下航サセ同水開  
ニヨル初運航ヲ開始シタ大清河ハ天津、保定ヲ結フ輸送経路上ノ最  
短路テアリ背後地ノ豊カナ物資ト相俟チ對日滿輸出ニ理想水路ノ實  
現ヲ待望サレテキタモノテアリ特ニ水位低クコノ運河ニ於ケル最大  
ノ缺陷ト目サレテキタ保定―定新間ハ降雨期テサヘ三十トシ型民船  
テモ滿載不能テ積載効率低ク華北交通ノ水運關係者ハ常ニ配船ニ惱  
ンテキタモノテ建設總署テハ八十萬圓ノ豫算ヲ計上九箇月ノ歲月ヲ  
以テ保定カラ六籽ノ東焦、同二十二籽ノ東安ノ二地點ニ水開建設ノ

六

大清河ニ水開成リ 大船團保定ヲ初船出  
背後地ニ井陘、正豐等著名ナ炭礦ヲ有シ沿線ニハ葦、アソベヲ、穀  
類等ノ農產物多ク運炭航路トシテ又農產物搬出路トシテ北支ノ内河  
水運ニ於テ最モ重要視サレテキル大清河（保定―天津）ハ局地的ニ  
淺瀬カアルノテ輸送上百パーセントノ効果ヲ發揮出來スカネカ遺  
憾トサレテキタトコロ今般建設總署ノ手テ水支ニ於ケル最初ノ水開  
カ特ニ水位低ク難航區中ノ難航區ト稱サレテキタ東焦ト東安トニ竣  
成ヲミ二十一日同水開テ盛大ナ通開式カ催サレルト共ニ華北交通テ  
ハ同日物資ヲ滿載シタ七、八十隻ノ船團ヲ保定ヨリ下航サセ同水開  
ニヨル初運航ヲ開始シタ大清河ハ天津、保定ヲ結フ輸送経路上ノ最  
短路テアリ背後地ノ豊カナ物資ト相俟チ對日滿輸出ニ理想水路ノ實  
現ヲ待望サレテキタモノテアリ特ニ水位低クコノ運河ニ於ケル最大  
ノ缺陷ト目サレテキタ保定―定新間ハ降雨期テサヘ三十トシ型民船  
テモ滿載不能テ積載効率低ク華北交通ノ水運關係者ハ常ニ配船ニ惱  
ンテキタモノテ建設總署テハ八十萬圓ノ豫算ヲ計上九箇月ノ歲月ヲ  
以テ保定カラ六籽ノ東焦、同二十二籽ノ東安ノ二地點ニ水開建設ノ

工事ヲ進メ二十二日漸ク北支最初ノ水閘カ竣成ヨミタモノテアルコノ  
水閘ノ完成ニヨツテ上流ノ水位カ確保サレル結果曩ニ到着シタ華北交  
通ノ新造船瑞陽以下四隻ノ機船ニヨル機械化船團ハ更ニ上流ニ航行ス  
ルコトカ可能トナリ重要物資ノ對日滿輸出ハ勿論ノコト同運河沿線ノ  
地方的荷動キハ愈々活潑ニナルモノトミラレル尙建設總署テハ大清河  
ノ全航路ニ亘ツテ水位ノ低イ難航區ニ水閘建設ノ手ヲ進メテキルノテ  
大清河カ渴水期ニ於テモ機船曳航ニヨル大船團ノ航行カ自在トナル理  
想的河川ニ變貌スルノモ愈眞近ニ迫ツテ居リコノ二水閘ノ完成ハ北支  
ニ於ケル理想河川建設ノ端緒トシテ北支内河水運上極メテ重要視サレ  
テキル

工事ヲ進メ二十二日漸ク北支最初ノ水閘カ竣成ヨミタモノテアルコノ  
水閘ノ完成ニヨツテ上流ノ水位カ確保サレル結果曩ニ到着シタ華北交  
通ノ新造船瑞陽以下四隻ノ機船ニヨル機械化船團ハ更ニ上流ニ航行ス  
ルコトカ可能トナリ重要物資ノ對日滿輸出ハ勿論ノコト同運河沿線ノ  
地方的荷動キハ愈々活潑ニナルモノトミラレル尙建設總署テハ大清河  
ノ全航路ニ亘ツテ水位ノ低イ難航區ニ水閘建設ノ手ヲ進メテキルノテ  
大清河カ渴水期ニ於テモ機船曳航ニヨル大船團ノ航行カ自在トナル理  
想的河川ニ變貌スルノモ愈眞近ニ迫ツテ居リコノ二水閘ノ完成ハ北支  
ニ於ケル理想河川建設ノ端緒トシテ北支内河水運上極メテ重要視サレ  
テキル







ワ ニ ス	ペ ン キ	顔 人 造 染 料 料	儀 貝 柱 、 乾 鱈	
	罐入トシ段 毛ル紙又ハ木 填スルコトヲ充			
回イ ド木箱(一) ラム罐入	木箱(一)	ハ コシ ト五 ド筒 ラム以上 罐入ノ ヲ附 スル	回イ 木箱(一) 厚蓋○。七 五糲、胴○。八 入トシ蓋及底ニ幅七 糲、厚二。一糲ノ ヲ施	ハ 所各二條宛 吠入トシ繩掛ハ縱二箇 木箱(一) 儀入トシ儀ノ小口ニハ ヲ當テ緊結シ横繩五箇所 繩四方掛各二條
		七〇疋		

此の表は、各種の材料とその用途を示しています。右側の欄には、具体的な寸法や数量が記載されています。例えば、木箱の寸法や、繩の長さなどが示されています。また、材料の種類や品質についても言及されています。



板硝子	陶器類	魚油	料其ノ他ノ塗	布	和糖入
	包ムコト 又ハ葉ノ木毛 ヲ以テ每箇ヲ	罐入			
イ ニ 中仕切ヲ設クルコト	イ 回 木箱(一) 透箱(二)	イ 回 木箱入(一) 透箱又ハ梓箱(二) ハ厚一〇糰以上ノ葉包ト シ二糰以上ノ葉繩ニテ横 四箇所三條以上縱十文字 各三條	木箱(一)	木箱(一)	和糖入
	八〇疋	合ハ五〇疋		四〇疋	

Handwritten notes and diagrams on the right page, including a large grid structure and various annotations.

蜂 袋	自 轉 車 部 分 品	自 轉 車	家 シ ブ 類	度 量 衡 器	時 計	機 械	硝 子 製 品
罐 入 ト ス							菓 又 ハ 木 毛 ヲ 以 テ 充 填 ス ル コ ト
イ 木 箱 (一)	回イ 木箱 (一) イ 木箱 (二)	回イ 木箱 (一) イ 木箱 (二)	木箱 (一)	回イ 木箱 (一) イ 木箱 (二)	仕切 ヲ 設 ク ル コ ト	回イ 木箱 (一) イ 木箱 (二)	回 中 仕 切 ヲ 設 ク ル コ ト 但 シ 内 部 ニ ハ 廻 籠 入 一 本 ト シ 繩 掛 ハ 縱 六 本 洞 一 洞 廻 以 上 ノ モ ノ 六 方 掛 又 ハ 洞 廻 二 箇 所 二 條 宛
	一〇〇 疋	九〇 疋 又 ハ 五二 立 方 米			五〇 疋		八〇 疋 又 ハ 四〇 立 方 米



硝球眞 子、空 球電管 球、電 用電	提 燈	漆 器	鏡 臺	刷、字 紙、紙、 印	燒 紙	帽 子
段、ホ ル紙箱	紙包 又ハ トス	ホ ル紙 箱入	ス ヲ充 分ニ 壞ノ 充類			
イ 木箱 （一） イ 梓箱 （二）	木箱 （一）	木箱 （一）	イ 木箱 （一） イ 透箱、 梓箱 （二）	厚一。二 種ノ板 ヲ厚二。 四種ノ 材ニテ 組合セ タル板 ヲ五箇 所以上 帶鐵締 トス	延包ト シ一。二 種ノ藁 繩ヲ以 テ縱三 箇所横 一箇所 各三條	イ 木箱 （一） イ 梓箱 （二） 但シ 隙間ヲ
				三〇〇 疋	一、四 〇疋	八〇 疋又ハ 容積〇 。八 立方 米



欄 構 造	樓 構 造	板ノ厚		種 別 總 重 量
		其 他	樓 板	
同 右	モ八ユ立容 ノ〇ル方積 ニ疋モ米〇 依造ノヲ。四 ルノハ超	〇。九	一。二 種	二五疋迄
同 上	同 縱 上 棧附	一。二	一。五 種	四〇疋迄
欄 棧 又ハ 一周	額棧附	一。五	一。五 種	八〇疋迄
各 二 周 以 上	額棧及 斜棧附	一。五	一。五 種	一二〇疋迄
同 上	同 上	一。八	一。八 種	二〇〇 疋迄
同 上	同 上	二。二	二。二 種	三〇〇 疋迄
同 上	同 上	二。四	二。四 種	三〇一 疋以上

一 木 箱 ( 蕙、蕙包ノモノヲ含ム )

鹽 酸	玩 具	レ コ ー ド
木箱 (一)	木箱 (一) 木箱 (二) 木箱 (二)	木箱 (一)
九〇疋	一立方米	五〇疋

種別	板ノ厚		種別	總重量
	樓板	其ノ他		
胴構造	一〇五	一〇三	四〇	四〇 疋迄
胴棧附	一〇五	一〇三	八〇	八〇 疋迄
同上	一〇五	一〇五	一〇七	一〇七 疋迄
各二周以上	一〇七	一〇七	二〇〇	二〇〇 疋迄
同上	一〇九	一〇九	三〇〇	三〇〇 疋迄
同上	二〇三	二〇三	三〇一	三〇一 疋迄
同上	二〇五	二〇五		

木箱ノ一般構造

イ 釘ノ長ハ板ノ厚ノ三倍半以上トス(棧釘ヲ除ク)側板(又ハ蓋・底板)ヨリ樓板ニ對スル打釘ノ間隔ハ原則トシテ使用釘ノ長ノ二倍以内トシ板一枚迄ニ一端最少二本トス

ロ 釘ハ原則トシテ斜ニ打ツコト

ハ 樓棧及胴棧ノ厚ハ樓板ト同程度ノ厚トシ幅ハ七糎以上タルコト

ニ 藁繩ノ類ヲ以テ充分緊縛スルコト

ホ 帶鐵一周ヲ藁繩三條二箇所掛ニ代フルコトヲ得

ニ 碎(透)箱(莖、菰包ノモノヲ含ム)





（一）... 鐵道輸送中ニアルカヲ的確ニ突止メルモノ  
テアル  
次ニ荷造ノ改善ニツイテハ事故ノ最大原因カ荷造ノ完全カ否カニ懸  
ツテキルノテ特ニ荷主ノ協力ヲ促スカ近ク滿鐵、國際運輸政府後援  
ノ下ニ新京商工会テ社團法人滿洲包裝協會ヲ設置、同協會ハ生産  
取引業者ヲ加入セシメ差當リ奉天、哈爾濱、大連ノ三ヶ所ニ支部ヲ  
置クカ、今年中ハ業者間ノ自覺ヲ促ス宣傳ニ事業ノ主力ヲ注ク答テ  
アル、亦一方輸送操作ニモ例ヘハ大連ニ荷揚ケセル砂糖テ麻袋ノ損  
傷セルモノハ大連テノ消費ニ向ケル等ノソレノ事情ニ應シタ對  
策モ考究サレテキル

（三）連絡荷物ニ就テ一般ヘノ要望

華北交通テハ曩ニ東京テ開催ノ第十四回日滿支連絡荷物事務打合會  
ニ於ケル決議事項ニ基キ、連絡荷物ノ取扱ニ關シテハ特ニ萬全ヲ期  
シ關係從事員ノ眞摯タル努力ニ依リ種々ノ困難ヲ克服シテ見ルヘキ  
成果ヲ擧ケツ、アル、偶々過般鐵道省ニ呼應シテ開始サレタ戰時輸  
送強化期間ノ漸ク酣ナラントスル今日、同社テハ此ノ際更ニ一層ノ  
努力ヲ傾注シテ日滿支連絡輸送ノ萬全、戰時輸送ノ強化ヲ圖ルヘク

天津碼頭ノ船車連絡愈々實現  
久シク待望セラレテキタ天津碼頭ニ於ケル船車連絡ハ華北交通ノ多  
大ノ努力ニ依ツテ諸施設力竣工ヲ告ケ、愈々五月一日カラ運營ヲ開  
始、戰時下日滿支輸送ルコトノ海陸連絡重要碼頭トシテ興亞ノ使命  
ヲ擔ツテ新シク發足スルコトニナツタ、天津碼頭ノ所謂特三區碼頭

關係從事員ニ對シ一段ノ奮起ヲ促シタカ、更ニ一般荷主、旅客ニ對  
シ左ノ諸點ニツキ積極的協力ヲ要望シ目的ノ達成ヲ期スコトニナツ  
タ、右ハ主トシテ落札等ニヨル荷主不明事故防止ノタメテアツテ  
△荷造表面ニ荷受人ノ住所氏名ヲ記載スル  
△貨物荷造内部ニ荷札ト同一事項其ノ他ヲ記載セル紙片ヲ挿入スル  
△連絡貨物中引越荷物ニハ絕對ニ荷造ニ宛名ヲ明記スルカ、又ハ梱  
包内ニ名札ヲ挿入スル  
△連絡手小荷物ニハ可及的布製荷札ヲ使用スル等  
等ノ外通關検査ノ際ノ解復裝作業ヲ簡易ナラシメルタメ國境通過荷  
物ノ荷札ハ必ス綱一本ニ括附ルコト、又荷物引渡ノ迅速ヲ期スル爲  
旅客ハ手荷物ヲ可及的配達扱トシテ託送スルコト等ヲ強ク要望シテ  
キル

(四) 天津碼頭ノ船車連絡愈々實現

昭和十四年六月、華北交通力迅速ナル船車連絡實現ノ目標下ニ經營ヲ開始爾來三年間岸壁、倉庫等ノ碼頭諸施設ハ着々擴張充實ヲ見ナカラ鐵道路線引込ノミハ種々ノ事情カラ實現力遲延シ碼頭運營上最大ノ惱ミトサレテキタカ今回漸ク引込線ノ工事ヲ了ツテ碼頭ト京山本線トノ連繫カ成リ、多年ノ懸案解決ノ日ヲ迎ヘタノテアル、今後ハ同碼頭ノ完全ナ倉庫其ノ他ノ陸揚收容施設ト鐵道引込線トカ兩々相俟ツテ現在ノ市内出庫貨物〇〇萬噸ハ一躍ニ倍強ノ増加ヲ豫想セラレ、同社ノ抱懷スル〇〇萬噸ノ理想ハ近キ將來ニ達成サレルモノト期待セラレテキル、此ノ船車連絡ノ實現ニヨリ從來天津站又ハ日本租界ヘ馬車、トラツク等ノ小運送機關ニヨリ運搬セラレテキタ貨物カ今後ハ天津站ニ於テモ引取り得ルノミナラス特ニ蒙疆其ノ他輿地向ケノ貨物ハ同碼頭カラ直チニ鐵道貨車積ミサレルノテ事故防止ハ勿論從來ノ小運送費用ハ全々不要トナリ從ツテ商品ノ市價ニ及ボス影響モ頗ル大キク荷主、業者ト共ニ一般大衆カ享ケル利益モ多大デアル、五月一日ニハ早クモ初荷列車ノ運行カ準備整ツテオリ新軌道ヲ滑ル驪々タル車輪ノ響キト研スル汽笛ノ音ハ綠香ル北支ノ空ニ慶ヒヨ傳ヘテ今ヤ天津碼頭ハ戰時下激増ノ一途ヲ辿ル兵站基地華北蒙疆ノ重要物資輸送ニ大ナル貢獻ヲ齎サントシテキル

華北交通力迅速ナル船車連絡實現ノ目標下ニ經營ヲ開始爾來三年間岸壁、倉庫等ノ碼頭諸施設ハ着々擴張充實ヲ見ナカラ鐵道路線引込ノミハ種々ノ事情カラ實現力遲延シ碼頭運營上最大ノ惱ミトサレテキタカ今回漸ク引込線ノ工事ヲ了ツテ碼頭ト京山本線トノ連繫カ成リ、多年ノ懸案解決ノ日ヲ迎ヘタノテアル、今後ハ同碼頭ノ完全ナ倉庫其ノ他ノ陸揚收容施設ト鐵道引込線トカ兩々相俟ツテ現在ノ市内出庫貨物〇〇萬噸ハ一躍ニ倍強ノ増加ヲ豫想セラレ、同社ノ抱懷スル〇〇萬噸ノ理想ハ近キ將來ニ達成サレルモノト期待セラレテキル、此ノ船車連絡ノ實現ニヨリ從來天津站又ハ日本租界ヘ馬車、トラツク等ノ小運送機關ニヨリ運搬セラレテキタ貨物カ今後ハ天津站ニ於テモ引取り得ルノミナラス特ニ蒙疆其ノ他輿地向ケノ貨物ハ同碼頭カラ直チニ鐵道貨車積ミサレルノテ事故防止ハ勿論從來ノ小運送費用ハ全々不要トナリ從ツテ商品ノ市價ニ及ボス影響モ頗ル大キク荷主、業者ト共ニ一般大衆カ享ケル利益モ多大デアル、五月一日ニハ早クモ初荷列車ノ運行カ準備整ツテオリ新軌道ヲ滑ル驪々タル車輪ノ響キト研スル汽笛ノ音ハ綠香ル北支ノ空ニ慶ヒヨ傳ヘテ今ヤ天津碼頭ハ戰時下激増ノ一途ヲ辿ル兵站基地華北蒙疆ノ重要物資輸送ニ大ナル貢獻ヲ齎サントシテキル



右の様な次第で滿洲各民族は各異つた言語を持つてゐるし、地方によつては之等民族の言葉が錯雜し更に轉音してゐるものもある。又各民族の風俗、習慣、制度發達等も異にしてそれぞれ各方面から地名が名づけられて居るので非常に複雑を極め地名解釋上にも困難が多いわけであるが、それだけに興味も亦深い。漢人は部落を呼ぶに人を主体とし土地を第二義とする慣習があるから漢人部落の地域は部落有力者の氏名をとり、飛地にも其の區域内の支配は受けない。蒙族は元の太祖鐵木嶺が其子孫及重臣に各々地域を定めて封じたから土地を第一義とし一定地域に限つてゐる爲旗の區域は判然としてゐる旗内の小部落は地界の判然としない所もある。省城、縣城名は爲政者の命名によるもので吉祥文字を使用したものが多く村、屯には上記に屬するものと衆議によつて決定したもの及び土民の俗稱を其儘使用してゐる所とがある地方の小部落は大部分俗稱に起因してゐるものであるから地方の状態、地形、地物、物資の状態、傳説等から名づけられて居るもの多く歴史、文化、産業上等の参考になる事も多い。街村制施行後の街、村名は殆ど爲政者によ

右の様な次第で滿洲各民族は各異つた言語を持つてゐるし、地方によつては之等民族の言葉が錯雜し更に轉音してゐるものもある。又各民族の風俗、習慣、制度發達等も異にしてそれぞれ各方面から地名が名づけられて居るので非常に複雑を極め地名解釋上にも困難が多いわけであるが、それだけに興味も亦深い。漢人は部落を呼ぶに人を主体とし土地を第二義とする慣習があるから漢人部落の地域は部落有力者の氏名をとり、飛地にも其の區域内の支配は受けない。蒙族は元の太祖鐵木嶺が其子孫及重臣に各々地域を定めて封じたから土地を第一義とし一定地域に限つてゐる爲旗の區域は判然としてゐる旗内の小部落は地界の判然としない所もある。省城、縣城名は爲政者の命名によるもので吉祥文字を使用したものが多く村、屯には上記に屬するものと衆議によつて決定したもの及び土民の俗稱を其儘使用してゐる所とがある地方の小部落は大部分俗稱に起因してゐるものであるから地方の状態、地形、地物、物資の状態、傳説等から名づけられて居るもの多く歴史、文化、産業上等の参考になる事も多い。街村制施行後の街、村名は殆ど爲政者によ



「ハルビン」の讀み方について、日本流に讀んでゐるかといふとさうでもない。例へば海拉爾、佳木斯、滿洲里の如きこれをカイラルともカボクシともマシユウリとも誰もいはない。ハイラル、ジヤムス、マンヂユリと呼び習しのまま使つてゐる。各縣名等はたいてい日本流に上り満人は滿人流に上んでゐる。

以上の様をわけて、滿洲では地名の讀み方には誠に弱らされる事が多いが、其地で呼ばれてゐるのに従ふのが一番よい様である。

が同一地點であることは皆承知の上である。

大連、哈爾濱は何れの民族間にも「ダイレン」「ハルピン」で通つてゐる。ダイレンと通稱してゐるがダイレンの方が正しいのであり「ハルピン」はもと「ハルビン」が正しいとされてゐたが哈爾濱市公署に於て「ハルピン」と一定されたから「ハルピン」と讀むがよい。





